学生の成長を全力で支援

「パンデミック」、1年前には聞き慣れていなかったこの言葉に翻弄された2020年が終わり、新しい年を迎えました。皆さんがこの稿をご覧になっているひと月後がどのような状況かも全く予想ができない、そんな先が見通せない時代を我々は今生きています。現時点ですでに6000万を超える感染者が世界で報告される状況を誰が予測できたでしょうか。唯一の救いは、人口100万人当たりの死者数が、日本は15・8人と米英仏伊やブラジル等の約800人に対し50分の1に抑えられていることです。しかし、日本だけが収まっても経済は元には戻りません。今年はワクチンの接種が本格化すると思いますが、様々な格差を乗り越え、どのように世界の人々に行き渡らせることができるのか、まさに人類の叡智が試される1年となるでしょう。

大学は、遠隔授業での対応や感染対策を施した実験・製図・ゼミ科目の対面授業の実施など、状況を判断しながらできる限りの対応に取り組んで参りました。メールでの個別対応が可能な遠隔授業では、同調圧力を気にせず質問がし易くなり、レベルに応じた課題を個別に提示できるなど、意欲の高い学生にとっては対面授業以上の成長につながっているという発見もありました。このような点も踏まえアフターコロナでどのような教育体制を構築するのか、教育効果の把握も含め、それが本学にとっての今年の大きな課題です。

今年の4月から大学は2030年に向けた新たな中長期計画をスタートさせます。昨年度本学は設立以来の建学の精神を改訂しました。そこでも再確認された実工学の伝統を継承しつつ、変化が加速する未来に向けて教育の中身は不断に改革していく。「実工学新時代」―変わる教育、変わらない理念、というビジョンはその姿勢を表したものです。専門力を社会に活かす経験を通して学生を成長させる、そのための活動拠点「人と暮らしの支援工学センター」も昨年立ち上げました。中長期計画の成否は、教職員全員がその理念を共有し、自分ゴトとして取り組めるかにかかっています。皆様のご協力を改めてお願い申し上げる次第です。

学長
成田 健一

日本工業大学通信　第 227 号　2021 年 1 月 1 日発行